

寺下遺跡



(棚田の風景)

1996.3

飯山市教育委員会

はじめに

- 1 本書は、平成7年度新農村地域定住促進対策事業福島地区に伴う、寺下遺跡（飯山市大字瑞穂字大清水1,591ほか）の緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査は、飯山市（担当経済部農林課）より依頼を受けた飯山市教育委員会が、平成7年12月1日より同年12月19日まで実施した。
- 3 調査体制は以下のとおりである。
担当者 望月静雄（飯山市教育委員会）
作業参加者 橋口 栄・橋山 巍・北條辰男・渡辺金治・石沢悦次
- 4 発掘調査においては以下の機関にご協力をいただいた。
飯山市経済部農林課・福島地区道路委員会・地権者
- 5 発掘調査は、約300m²を調査したが摩耗した土器片1点を検出したのみである。
- 6 本書の作成は飯山市教育委員会生涯学習課が担当した。
課長 山崎賢太郎 社会教育係長 町井和夫 同係 望月静雄



図1 寺下遺跡の位置 (1 : 25,000)

概要

1) 遺跡の位置

寺下遺跡は、飯山市大字瑞穂福島地区に所在する。飯山盆地の東麓を形成する三国山脈毛無山系に属する万仏山の山麓に位置する。急斜な扇状地上にあり、大小の礫が厚く堆積している。遺跡の所在する付近においても、礫を集めたヤックラや水田造成に伴って石を積みあげたいわゆる「棚田」が広がっている（表紙写真）。その景観はすばらしいが、言い換えれば新田開発に汗した農民の歴史を見るのである。

2) 遺跡の概要

寺下遺跡は、東上に所在する曹洞宗実正寺の下方に位置する事から付された名称と考えられる。明治29年発行の東京人類学会雑誌において、宮沢甚三郎は「福島にて石斧・土器破片」と記されている。これが遺跡として福島地区が現れる最初であろう。昭和29年発行の下高井においては、「犬飼・富田・福島・丸山・木原などは流泉の豊富な場所であり、それぞれ若干の遺物が発見されている。」として福島の名前が登場する。また、昭和32年発行の「信濃史料第1巻地名表」においては、「寺下（福島）」としてはじめて寺下の名称が使われている。福島地区の故森山国士一氏所蔵遺物では、縄文時代の土器片が採集されている。しかし多くが水田となっており地形の改変も著しいこと等、遺跡の中心部や範囲についてははっきりしていない。

3) 調査の経過

平成7年7月、飯山市役所経済部農林課より教育委員会事務局生涯学習課長あて「平成7年度新農村地域定住促進対策事業福島地区連絡道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査の有無について」の照会がある。同7月26日付けで生涯学習課長名で、

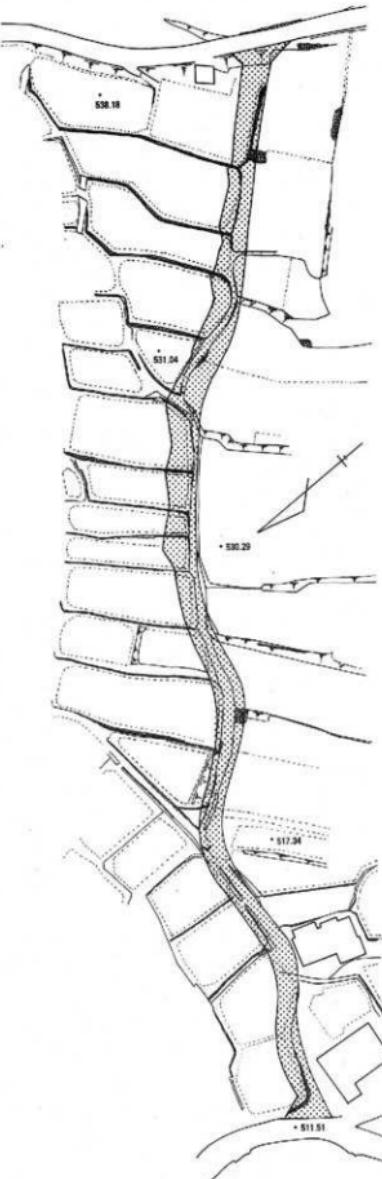


図2 工事設計図（1:1,000）

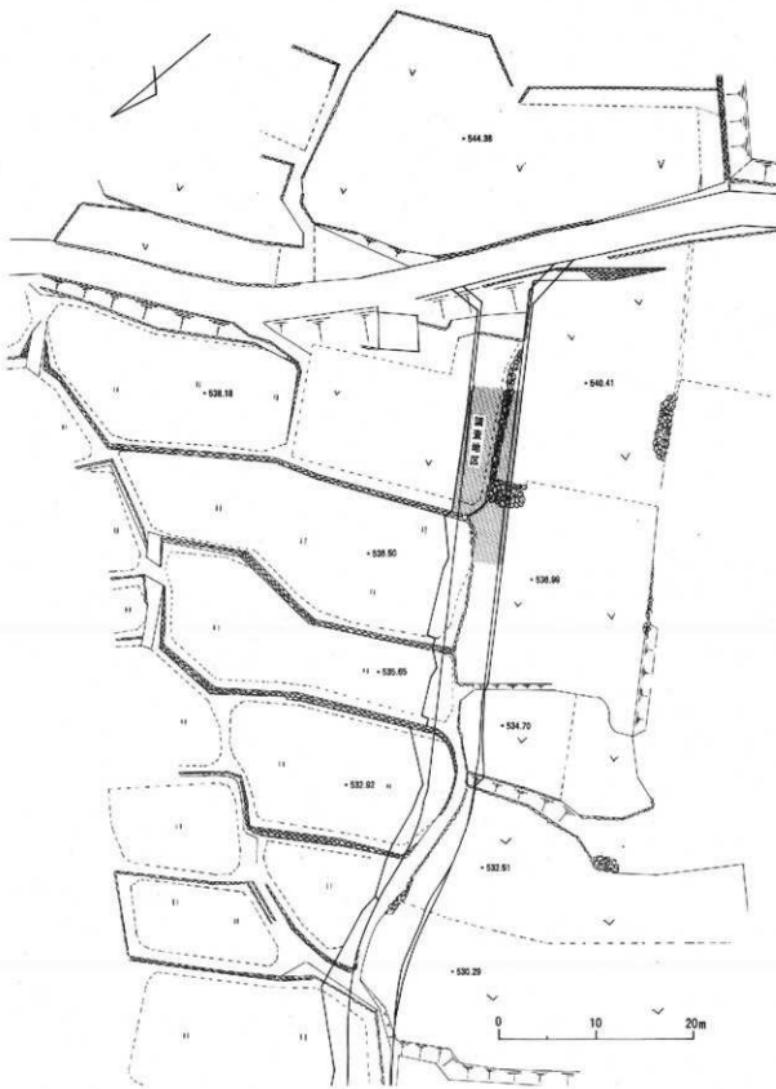


図3 調査区(1:500)

最低限の調査の必要性がある旨回答する。

8月1日、市役所経済部農林課より文化財保護法第57条の3第1項の規定により「埋蔵文化財発掘の通知」が提出される。続いて8月18日付けで、同法98条の2第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の通知を提出する。その後、工事設計等ができ上がらないため調査に入ることができなかった。

平成7年12月1日付けで契約書を締結、調査に入ることとなった。ただし、時期的にも降雪の時期を迎えていたため調査が懸念されたが、工事を直に着手したいという要望により実施することとなった。

4) 調査経過

平成7年12月7日 調査対象地選定。隣接地等境界の確認。

- 12月8日 0.25パックホーにより表土除去を行う。早朝より雪が降り午前中で15cmほどの積雪となる。耕作土よりすでに礫を含み、その下位の黒色土層(約30cm)にも多量の平石を含む。その下位は黄褐色土。やはり礫を含む。遺物は認められない。一部黄褐色土まで削除したが、黒色土約15cmまで取り除いた。
- 12月18日 しばらく積雪のため調査できていないが、本日より再開。あいにくの降雪。30cm位の雪を取り除き、ジョレンにて精査。礫が多く出土。縄文土器と思われる摩耗した土器片1点出土するが、遺構等は認められない。
- 12月19日 ジョレンによる調査続行。約300m²を調査。写真撮影を実施して調査完了。

5) 調査区の概要

調査地区は、調査対象地の最も東上である。かつて遺物片を採集したところであり、比較的緩やかに西傾斜している。また、土地区画の境付近を道路センターとしており、大小の礫が積み上げられていた。なお、道路の北側半分は水田にかかっているため、工事期間との関係で8年度に水稻耕作を実施する場合を考慮して、調査しないこととした。

調査区の土層は図4のとおりである。約10cmの薄い耕作土があり、その下位は約30cmの黒色土層がある。ただし、土層というより礫層といった方が相応しいくらい大小の礫の層である。おそらく押し出しによるものと考えられる。黒色土層の下位は黄褐色土層の地山となる。

このうち、遺物包含層は黒色土層であるが、中位より下層が縄文時代遺物の包含層ではないかと思われる。現在の地表面より約30cm下位である。



図4 標準層序 (1 : 20)

- 1 耕作土
2 黒色土層（礫多量に含む）
3 黄褐色土層（礫多量に含む）

結果

約300m²を調査したが、わずかに摩耗した土器片1点を検出したのみであった。縄文土器としてよいであろう。中心地点は不明であるが、本調査区を含めて遺跡であることは間違ひがなさうである。その意味で調査実施の必要性も成果もあったと考えている。

この度の調査は、12月に入ってという積雪地帯では無謀ともいえる時期に行うこととなつた。事実、調査時において一晩に30cmもの積雪があり、除雪してさらにどろどろになりながらの調査であった。遺跡の中心地でなかったのが不幸中の幸いであったといえるが、工事に際しては調査時期や期間を十二分に配慮願いたいと思う。最悪の条件の中でご協力いただいた作業参加者には心から御礼申し上げたい。

参考資料

明治29年10月 福島出土遺物 宮沢甚三郎解説
「此の図の示すもの石器時代人民の遺物なりて石槍の一種ならん 此の時代の人民を「コロボックル」といふ 此の人民ハ今より大凡三千年のもの
此地は繁栄せしものなりて未だ金属の用を知ら
さりし故石属を用いて種々の器具を作り日常の用
を供せしものなり」

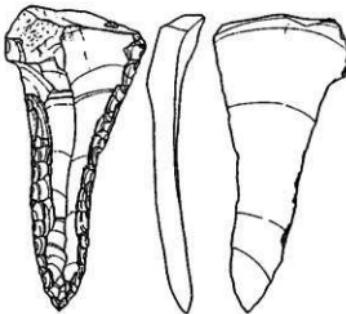


図5 削器 (1 : 2)



写真1 調査区近景



写真2 重機による表土除去

飯山市埋蔵文化財調査報告 第52集

寺 下 遺 跡

平成8年3月発行

編集・発行 長野県飯山市教育委員会
長野県飯山市大字飯山1,110-1

印 刷 倍足立印刷所